

1、相談者の傾向

相談者実数は81名でした。振り分けとしては成人41名、児童40名で、成人・児童の人数がほぼ同じというのが特徴と言えます。児童は未就学から小学校で31名と8割を占めています。また、児童40名中、12名が未診断、未判定の方の相談で、3割に達しています。成人では精神障害者の相談者が7名から17名と倍増しています。

2、相談動向

相談件数、実人数の半数近くは、訪問や面談、同行など、直接的にご本人・ご家族と関わる機会を多く持ち、信頼関係の構築を基礎としながら相談支援を進めてきました。ご本人、ご家族の抱える困りごとや希望に応じて、多い人では月2回の定期面談、定期訪問を行いました。個別相談だけでなく、機関相談も活動しました。指定相談支援事業所さんと協働し、支援内容の調整や組み立てなどを、事業所さん、ご家族にもご協力いただきながら実施しました

3. 支援内容

支援内容で最も多かったのは「福祉サービス」で、次は「就労」でした。「福祉サービス」の相談背景(ゆいっとではこれを「見立て」もしくは「所見」と言っています)日常生活での困りごとや対人関係、不安などが背景にあるものが多いと理解しています。このように、表出されるニーズの裏に、本当のニーズ(リアルニーズとゆいっとでは言っています)がどこにあるのかを相談員同士で話し合いながら、一人ひとりの相談を進めてきました。児童期においては保育・教育・療育に関する支援が多く、子育てに対する不安や成長に対する不安、障がいに対する理解の希薄さが背景にあるものと理解しています。

4、その他の活動

委託相談支援の仕様書以外の活動として、一昨年度の夏から、町内にある保育園や幼稚園の支援を行ってきました。H30年度については、町内2園からの希望があり、年間で合計30回の訪問支援と1園については保育士向けの勉強会を2回実施しました。なぜこのような活動が必要だったかは次の地域課題で表記します。

5. H30年度の活動から見る地域課題

○児童期支援の強化

寒川においては児童発達支援事業が1か所しかない状況で、町内事業所、他市事業所を利用するにあたってご家族が送迎しなければならない状況です。

町内、他市事業所から幼稚園・保育園に進む児童も多いですが、その後のアフターフォローはほぼない状況であることや引継ぎが不十分なこともあり、園や保育士の先生方がどのように対応してよいか、不安や困りごとを抱えています。本人、家族、保育士(園)それぞれが、安心して保育を受ける、提供する環境整備が必要です。

○重層的、横断的な相談支援体制(本人・家族を中心とした所管課・事業所の連携)

委託相談、指定相談支援事業所だけでは支援や対応に苦慮していることがあります。相談支援事業所同士が相談しあえ、協働できる体制を整える必要があると思います。委託相談支援事業だけでは困難なところも現状ではあるので、そういった機能を確実に担ってもらうためにも基幹相談支援センターを設置し、重層的な相談支援体制が必要だと思えます。

また、相談者のニーズによっては障がい福祉サービスや障がい福祉施策だけでは解決できない課題があります。具体的に言えば子育てや高齢者、教育関係等です。この関係所管課との連携や連動がスムーズになっていけば、ニーズの充足に向けては進みやすくなると思います。

寒川町委託事業 保育士支援事業の流れと内容

1、幼稚園・保育園の実情

数年前の文部科学省が発表した「学校における気になる児童の数」は6.5%程度とされています。実施経験上、クラスの中では3割程度占めているところもありました。その状況のもと、先生方はわからないなりにその子やその子らを含めたクラス全体が成長できるよう必死に、真摯に対応されています。

しかしながら、そこでの困りごとや保育への不安を相談できる場も機会もない状況でした。保育士の先生方が、「気になる子ども」がいても安心して自信を持ち保育を提供できる環境づくりが必要です。先生方が安心して保育に臨めることは、子どもや家族も安心して通うことにつながっていくと思っています。

2、訪問園決定までの流れ

- ①前月の15日までに訪問支援依頼を障がい福祉担当に連絡。(原則先着2園)
- ②訪問園決定後、障がい福祉担当からゆいっとに報告。(前月20日を目安に)
- ③ゆいっとから訪問園に対し、日程調整の連絡をし、訪問日を決定

3、保育士支援の内容

- ①訪問園の担当保育士は、所定の書式に必要事項を記載。
 - ・「保育士・クラス運営上で困っていること、心配なこと」と「困っていることや心配なことの具体的な様子」を記入する。(別紙参照)
- ②訪問1回目(クラス観察日)
 - ・書式の内容を確認し、簡単なヒアリングを行ったうえで各クラスの活動の様子を見学します。
 - ・対象児童だけでなく、ソフト面、ハード面の環境をアセスメントしていきます。
- ③訪問2回目(フィードバック面接日)
 - ・アセスメントをもとに各クラスの担任の先生へフィードバックします。
 - ・フィードバックについては、当日の本人の行動やクラス状況を交えながら、先生方にわかりやすいように伝える工夫をしています。
 - ・クラスだけで対応できない場合は、園長や主任の先生にも端的にフィードバックの内容を伝え、園全体としての協力体制をお願いする場合があります。

(相談支援利用者の状況)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害児	7	0	0	4	0	2	0	1
障害者	21	2	0	4	11	1	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	28	2	0	8	11	3	0	4

(支援方法)

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延べ件数	12	8	10	29	0	1	10	0	70
実人数	12	8	7	21	0	1	8	0	57

(支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
延べ件数	18	7	2	1	3	2	0	25	6
実人数	8	3	1	1	2	1	0	7	5

(相談の傾向や課題)

新規ケース 0件

【相談の傾向】

- ・先月、同時期に4ケース(内1ケースはサービス等利用計画対象者)の居宅介護サービス調整を行った。時間帯も近いこともあり、難航したが何とか今月より4ケースともサービスを開始できる運びとなった。1ケースについてはサービスが不十分のため今後調整を行う。
- ・児童期相談については、各事業との連携が必要なケースが多く、週に何度かは各機関との情報交換を行っている。
- ・新規GH希望のため体験入居を実施。初めは受け入れ前提のような話であったが、対応困難ということで厚木にあるホームを紹介される。家族としては、この機に入居をさせたいと考えている。ホームが違えば、組織としては所詮同じものであるため、形態の違うホームだからといって対応可能というのはいささか疑問である。

【地域課題】

- ・居宅介護サービス調整における工夫ができないものか。寒川地区対象にサービス提供を行っている事業所にメンバーリストの加入等をお願いし、そこでサービス依頼の一斉送信をすることで、調整の効率化ができないものか。
- ・児童期支援の連携強化。事業所との連絡、情報交換・共有はできつつあるものの、行政、学校、連絡、情報共有は希薄である。中でも、子ども行政の所管課とは「連携」のどちらかが異なるため、まずは「連携」の意味を共有したい。

令和元年度 寒川町障害者等相談支援事業 業務委託報告書

5月分

事業所名: ゆいっと

(相談支援利用者の状況)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害児	10	0	0	5	0	5	0	0
障害者	23	2	0	3	15	1	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	33	2	0	8	15	6	1	1

(支援方法)

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延べ件数	17	5	4	37	0	1	8	0	72
実人数	17	5	4	23	0	1	5	0	55

(支援内容)

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
延べ件数	21	5	0	1	5	1	2	17	3
実人数	11	2	0	1	3	1	2	6	3

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	住宅入居等に関する支援	その他	合計
延べ件数	0	0	12	5	72
実人数	0	0	3	1	33

(相談の傾向や課題)

新規ケース 4名 成人 4名

【相談の傾向】

・今月の新規は、4名中3名が精神の方で、いずれも病院からの紹介ケースであった。3名すべてが「地域移行」のケース。今年度、茅ヶ崎保健所の取り組みとして地域移行に関するワークショップを発足させることや、宮山駅近くに新規のGHが立ち上がったことも要因と考えられる。ケースによっては、本人は全くイメージできていないに関わらず、支援者側が地域移行ありきで進んでいると感じることがあり、どう進めるか不安な部分もある。

【地域課題】

・ここ最近、発達障害をもつ当事者から「同じ(似たような)立場にいる他の人の話も聞いてみたい」と訴えがあり、調べてはいるが、発達障がい当事者が集まるような場が極端に少ないことがわかった。ゆいっとでそれを希望する方は中学生～高校生と青少年期の方に見られ、中でもその世代の集まりは少ない状況。

(相談支援利用者の状況)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
障害者	25	3	0	4	12	4	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	25	3	0	4	12	4	1	1

(支援方法) ※同日に同じ支援方法をした場合は重複なのでカウントしない

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延べ件数	9	14	5	55	0	0	59	0	142
実人数	7	7	4	13	0	0	19	0	50

(支援内容) ※主訴で集計

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒不安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
延べ件数	76	0	12	25	0	7	0	5	12
実人数	20	0	6	4	0	4	0	1	3

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	住宅入居等に関する支援	その他	合計
延べ件数	5	0	0	0	142
実人数	2	0	0	0	40

(相談の傾向や課題)

- ・新規相談…①難病(一次性ネフローゼ)により入院していた方の退院に伴いヘルパーの調整。②交通事故のよる両腕骨折等あった方の退院に伴うヘルパーの調整。③新潟県から町内のGHIに入居予定の方の月中活動の調整。
- ・その他…急な状態変化(後継じん帯骨化症)に伴い介護保険を利用される事になった方のサービス調整。

(相談支援利用者の状況)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害児	3	0	0	1	0	2	0	0
障害者	31	4	0	7	15	4	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	34	4	0	8	15	6	0	1

(支援方法) ※同日に同じ支援方法をした場合は重複なのでカウントしない

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延べ件数	9	13	3	43	0	2	59	0	129
実人数	6	8	3	17	0	2	23	0	59

(支援内容) ※主訴で集計

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援
延べ件数	80	0	15	20	0	3	1	7	1
実人数	28	0	9	5	0	3	1	5	1

	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	住宅入居等に関する支援	その他	合計
延べ件数	0	1	0	2	130
実人数	0	1	0	1	54

(相談の傾向や課題)

・新規(数年ぶりの相談含む)相談が数件入っている。…①放課後等デイを利用されている児童(兄弟)の利用日増に伴うセルフプラン作成補助。②統合失調症で横浜市の病院に入院されている方の退院前カンファレンス参加の依頼。③七沢自立支援ホームに入所されている脊髄損傷の方の退院に伴うヘルパーの調整。
 ・新規の相談のシステムは多く、対応に苦慮している様子がある。その相談は、バランを考慮せず感じている。